教育資料 7-1-1

教育

水曜▼特報 木曜▼特報 金曜▼大学 土曜▼子育

唱歌「ふるさと」続く風景は

作詞して考える今の日本

部屋でゲーム ピコピコ 混む電車で出勤

文部省唱歌「ふるさと」の歌詞の続きをつくろう。そんな授業を、首都大学東京の西島央准教授（教育社会学）が試みている。21世紀の日本のイメージを探るのが狙いだが、子どもたちが描くのは、ビルが林立し、ネットでつながり合う情景。歌の原風景は遠い。

西島准教授は、音楽による社会的なつながりを研究。明治期から教科書に載っていた文部省唱歌が、子どもらに共通の日本像を育てたことに注目してきた。

「ふるさと」は「春の小川」や「虫のこえ」など季節を歌った唱歌と異なり、普遍的な故郷のイメージを描く。「一定の年齢以上の人だと同じ情景を想像し、日本らしさを感じるかもしれないが、若い世代は距離がある」と西島准教授。

いま「ふるさと」の歌詞の続きを新たにつくるとしたら、どうなるか――。首都大学東京と、母校の私立麻布高校の1、2年の総合学習の授業で、3年前から取り組み始めた。

授業では、まず「ふるさと」の歌詞から読み取れる日本の風景を挙げる。続いて、他の唱歌の詞を「季節」「儀式」「道徳」「日常生活」などに分類してみる。さらに、山口百恵の「秋桜」、森山直太朗の「さくら」といった現代の歌が、今の日本をどう表現しているかを確認。それを踏まえ、数人のグループで歌詞づくりに取り組む。

これまでの作品では、図のA～Dのように、自然が失われ、地縁や血縁も薄らぎ、立身出世から遠ざかった世界を描くものが多い。

先月末に取り組んだ麻布高校の生徒からは「みんなに共通のふるさとは、もうないのでは」「だからこそ一人ひとり違う歌があっていい」などの声が出た。

「ふるさと」は、東日本大震災後、被災地の岩手県大船渡市立大船渡中学校の生徒たちが卒業の際、避難住民の前で歌った場面がテレビで紹介された。ギタリストがCDを出し、被災地の女性が登場する化粧品のコマーシャルで熊木杏里の歌声が流れるなど注目を集めている。

西島准教授は「歌があれば、人は故郷を奪われた被災地に思いをはせることもできる。だが、一つの情景を歌うことで、時代や地域の違いが見えなくなる側面もある。いまの『ふるさと』の詞をつくることで、そこを考えてほしい」と話している。

作品募り交流計画

西島准教授は、小中高校生、大学生による新しい「ふるさと」の歌詞を募っている。作品をツイッター（@furusatonippon）で公開し、交流したいという。応募は①住んでいる市区町村②学校名③学年④氏名⑤メールアドレスまたは電話番号⑥新しい歌詞――を明記し、郵便（〒192・0397 東京都八王子市南大沢1の1、首都大学東京・都市教養学部人文・社会系西島研究室）か、メール（furusatonippon@gmail.com）で。

（編集委員・氏岡真弓）

ふるさと 作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

①
うさぎ追いし かの山
小ぶなつりし かの川
夢は今も めぐりて
わすれがたき ふるさと

②
いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

③
志を 果たして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと

?

麻布高校の生徒が作った「ふるさと」のつづき

Ⓐ
都会色に 染められ
身も心も モノクロ
人の波に のまれて
どこに行った ふるさと

Ⓑ
親のすねを かじって
部屋でゲーム ピコピコ
掲示板で ののしり
自立できぬ ふるさと

Ⓒ
メールします 今どこ
つぶやきます 家なう
各地に広がる ネットワーク
つながり合う ふるさと

Ⓓ
混む電車で 出勤
夜遅くに 残業
ただひたすら 働いて
先の見えぬ ふるさと

The Asahi Shimbun

今の小学校学習指導要領で「共通教材」とされている文部省唱歌

【1年】「うみ」「かたつむり」「日のまる」
【2年】「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」
【3年】「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」
【4年】「まきばの朝」「もみじ」
【5年】「こいのぼり」「スキーの歌」「冬げしき」
【6年】「おぼろ月夜」「ふるさと」「われは海の子」

◆◆◆配事や「いま子どもたちは」へのご感想、教育に関するご投稿を歓迎します。edu@asahi.comまたはFAX03・3542・4955。